場所　千葉県松戸市

面積　0.32ha

活動目的　都市樹林の価値を探索し、生物多様性を保全し、生態系サービスを発掘、開発することを目的とする。



グーグルマップ３Dを引用

サイト概要　千葉県北西部、江戸川水系の崖線沿いにある個人所有の民有林。2013年より松戸市緑の条例に定める特別保全樹林地区に指定されている。JR北小金駅から徒歩7分の立地は、都心の大手町駅まで直通で１時間弱で出られる便利さがある。周囲は、住宅地として戸建てやマンションが建ち、そのなかに森が残されている。西から北側にかけて崖線の急斜面が弧を描き、12mの高低差がある。低地の際には少量の湧水がある。樹高31mのシラカシをはじめスギ、サワラ、スダジイ、イヌシデ、ムクノキなどが林冠を構成し、山の樹木と庭木由来の樹木が混生する多彩な環境をつくっている。フクロウ、サシバなどの猛禽類なども飛来し、サイトの生物多様性を担っている。

土地利用の変遷

周辺は縄文中期から人が住み続け、遺跡や古墳などが出土する。西側は中世の山城で、サイトは当時の家老屋敷跡といわれている。短冊状に異なる所有者がいたことから、共同で薪をとる林であったことが推察できる。1944年、現所有者の祖父が分散していた持主から土地を買い集め、居住して現在に至る。隣地に続く森を借景とした庭をつくり、北側は崖線の急傾斜地で雑木林となっていた。境界木としてシラカシが植えられ、８０年かけて高木の林となった。当初はマツが優占していたが、現在は、シラカシ、スギが優占し、多様性のある森となっている。

サイト周辺の環境

台地は東側に広がり、南側と東側の崖線沿いはマンションが並んでいる。樹林に隣接して果樹畑が1,000㎡ほど続いている。それ以外は、集合住宅、戸建住宅、駐車場などが占めている。低地をはさみ西側は入江状に保全樹林地区等の緑地が続いている。

アピールポイント

地形の高低差に加え樹高20mを超える高木が林冠を占め、凸型に湾曲する崖線を持つことで、狭いながらも立体的な林縁がつくられている。約80年の期間があれば、雑木の庭も高木の密生する森に生長する実例がここにある。林床は微地形の変化により、植生の変化がうまれている。庭木由来の樹木が雑木と混生し、樹冠や林縁で光を取り合う様子は生物相を豊かにし、都市にいて大自然の中にいるように錯覚するほどである。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

調整サービス：高木がつくる樹冠と林床によって気候調整機能があり、極端な気温を緩和し、潤いのある環境を提供している。毎木調査の結果から、炭素固定量は28-29ＣＯ2ｔ/haと推定され、多様度指数はシャノンのH’で2.72（自然対数）、シンプソンのDで0.886となった（2023年）。防災減災としては雨水浸透作用及び急傾斜地の土砂流出防備機能を有している。文化的サービス：都市の貴重な緑地が癒しと緑の景観を保っている。

【主な植生】

常緑広葉樹（シラカシ）と針葉樹（スギ、サワラ）の混交林で、林冠は２０mの高さにある。台地の端部にあり、西から北側にかけて崖線が円弧上にあり、西側にも同様な崖線の樹林が続いている。中央部は住居の前庭として草地の開けた空間がある。住戸の西側には小さな池、北側の崖線の際には湧水があり動物の生活の場になっている。

【確認された主な動植物など】

毎木調査によって確認されている主な植物
樹冠層：シラカシ、スギ、サワラ、ムクノキ、イヌシデ
亜高木層：ヒサカキ、ヤブツバキ、シロダモ
低木層：ネズミモチ、サンショウ、ユズリハ
下層植生：ヤブムラサキ、ギンラン

生息が確認されている主な動物
鳥類：フクロウ、サシバ、ヤマシギ、ヒヨドリ、キジバト、コゲラ、シジュウカラ、メジロ
哺乳類：タヌキ



写真の説明：境界木のシラカシ大木（DBH70㎝、樹高31m）



写真の説明：崖線際の湧水（満水時）

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

常緑広葉樹（シラカシ）と針葉樹（スギ、サワラ）の混交林で、林冠は２０mの高さにある。台地の端部にあり、西から北側にかけて崖線が円弧上にあり、西側にも同様な崖線の樹林が続いている。中央部は住居の前庭として草地の開けた空間がある。住戸の西側には小さな池、北側の崖線の際には湧水があり動物の生活の場になっている。

【確認された希少種】

サシバ（*Butastur indicus*）環境省レッドリスト 絶滅危惧Ⅱ類(VU)、
千葉県レッドリスト最重要保護生物(A)
フクロウ（*Strix uralensis*）千葉県レッドリスト 重要保護生物(B)
ギンラン（*Cephalanthera erecta*）千葉県レッドリスト 一般保護生物(D)



写真の説明：やや明るい林床に咲くギンラン



写真の説明：サシバの飛来状況

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

常緑広葉樹（シラカシ）と針葉樹（スギ、サワラ）の混交林で、林冠は２０mの高さにある。台地の端部にあり、西から北側にかけて崖線が円弧上にあり、西側にも同様な崖線の樹林が続いている。中央部は住居の前庭として草地の開けた空間がある。住戸の西側には小さな池、北側の崖線の際には湧水があり動物の生活の場になっている。

【対象となる動物種とその動物種の生活史の内容】

サシバ（*Butastur indicus*）環境省レッドリスト 絶滅危惧Ⅱ類(VU)、千葉県レッドリス最重要保護生物(A)：２０２０年９月に飛来を確認し、ビデオ撮影した。

フクロウ（*Strix uralensis*) 千葉県レッドリスト 重要保護生物(B)：
２０２２年１２月から１カ月ほど、日暮れからほどなく、求愛期のフクロウのさえずりがよく聞かれた。同じころ森で鳥の羽根を見つけ、調べてもらったところフクロウの羽根であることが確認できた。

ヤマシギ（*Scolopax rusticola*）：
２０２１年１月に、住戸の前庭で採餌しているところをビデオ撮影した。この年は数羽のヤマシギが確認できている。



写真の説明：同定を依頼したフクロウの羽根



写真の説明：ヤマシギ（動画からの切取り）

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容

＜活動目的＞
樹林の価値を探索し、生物多様性を保全し、生態系サービスを発掘、開発することを目的とする。

＜活動内容＞
・樹木医研修の形式で毎年毎木調査をおこなう。調査結果を解析し、樹林の価値づくりへ役立てていく。
・樹林に光が差し込むように、８～１５mの高さで大枝の除伐等を適宜実施する。（ロープクライミングとリギングの技術を用いる）
・隣地境界部、林縁部の越境枝を隣地管理者と打合せのうえ適宜剪定する。
・雨水浸透と土中の通気環境改善を目的に、しがらを組み、段切りをして通路や階段を設ける。作業は専門学校のインターンの協力を得て実施する。

＜活動体制・方向性のレビュー＞
・毎木調査解析の討議をもとに年度の作業の方向性を見直し実施、翌年の調査に備える。

＜将来への課題・長期展望＞
・近隣との良好な関係づくり、協力を求めること
・樹林からの恵みを供給サービスにつなげること
・価値を上げるための各方面へのコミュニケーション

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】
毎木調査では、植物（木本）を対象とする。付随して下層植生（木本・草本）のモニタリングを実施する。別途、昆虫を対象とする調査を計画（未実施）
活動責任者が常駐のため、鳥類、哺乳類は随時モニタリング。

【モニタリング場所】
樹林全域

【モニタリング手法】
モニタリングサイト１０００森林草原調査　コアサイト設定毎木調査マニュアルをベースに都市樹林に合わせてマニュアルを作成、樹木医研修の形式をとり毎木調査をおこなう

【モニタリングの実施時期及び頻度】
年１回、４月中旬におこなう。

【モニタリング実施体制】
森林総合研究所フェローである高橋正通氏に講師を依頼し、樹木医CPD研修の形をとり実施。東京学芸大学の鉄矢悦朗教授の協力や、松戸市みどりと花の課と連携している。実施後、解析結果についての討議を行い。樹木医の幅広い意見を取り入れている。